様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 21 年 4 月　22 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006―2009
課題番号：１８５２０２０４
研究課題名（和文）　現代アメリカ演劇における歴史表象と文化的アイデンティティの関係性
研究課題名（英文）　The Relationship between Historical Representation and Cultural Identity in Modern American Drama

研究代表者
貴志　雅之（KISHI MASAYUKI）
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：30195226

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ系文学
キーワード：アメリカ演劇・歴史表象・文化的アイデンティティ・政治学・アメリカニズム・人種・クイア・他者

１．研究計画の概要

本研究は、ポストコロニアリズム、ポスト多元文化主義、ポストモダニズム、フェミニズムを中心に、人種、国家、ジェンダーなどの諸問題と連動して活発化する歴史表象／歴史認識をめぐる問題・言説に着目し、現代アメリカ演劇が、支配的イデオロギーに対して（共犯者あるいは抵抗・対抗勢力として）歴史をいかに表象してきたかを通時的かつ共時的に分析・検証する。そして、歴史表象／認識システムの脱構築へと向かう現代アメリカ演劇の政治的アクティヴィズムと演劇戦略を、人種、ジェンダー／セクシュアリティ、クイア、帝国主義、資本主義を中心とした社会文化的コンテクストの視座から明らかにし、現代アメリカ演劇の政治学を可視化、定位することを目的とする。

２．研究の進捗状況

劇作家、演劇作品、ジャーナリズム・メディア情報を含む歴史・文化・社会文献の調査・分析・研究により、当初 3 年間で予定していた研究目標をおおむね達成した。具体的成果は、以下の通り：

(1)　合衆国における植民地主義、帝国主義、ポスト植民地主義の歴史表象変遷の検証

(2)　両世界大戦から、冷戦、ポスト冷戦に至る政治と演劇の関係性に関する通時的検証プロジェクト。

上記 2 つの研究項目の成果は、2 冊の共著『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』(2006) と『神話のスパイラル ―アメリカ文学と銃』（2007）に著し、これと連動して、19～20 世紀転換期のアメリカ演劇の歴史表象と演劇メディア・文化の関係性について「ナショナル・アイデンティティ」の視座から論じた研究を共著『プッチーニ　西部の娘』（2007）で発表。さらに、両世界大戦間のアメリカ演劇のイデオロギー性についてアメリカニズム強化演劇メディアとして Thornton Wilder の *Our Town* を論じた「Grover’s Corners の地政学 ―― *Our Town* が持つサブリミナル・メッセージ」を全国アメリカ演劇研究者会議第 25 回大会シンポジウム（2008）で発表した。

(3) アフリカ系アメリカ演劇の歴史表象と文化的アイデンティティ構築・更新の関係性とその政治性に関して、上記冒頭の共著 2 冊および米国 ATHE20 周年記念大会パネル（2006）で発表。

(4) 女性の文化的アイデンティティに関する研究では、マリア・アイリーン・フォルネス研究の批評言説そのものを脱構築した「パラダイムの逆襲　―『フェフとその友人たち』に見るポリフォニーの幻影」を『アメリカ演劇』第 18 号（2006）で発表。

(5) クイアを焦点化した冷戦からポスト冷戦に至る歴史表象を「アメリカ演劇の政治学」の視座から考察した研究「２０世紀アメリカ演劇の政治学―冷戦・クイア・ポスト冷戦」を第５１回日本アメリカ文

学会関西支部大会フォーラム（2007）で発表。さらに冷戦時代の国家権力とイデオロギーおよびクイアの対抗言説の関係性を平成 20 年度業績の Tennessee Williams と Lanford Wilson に関する 2 本の論文として発表した。

以上からこれまでの研究の進捗状況は良好であり、ほぼ順調に研究計画を達成できたと考える。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：

上記「２．研究の進捗状況」に記載した理由による。

４．今後の研究の推進方策

研究概要で記した最終目的に向けて、ポスト冷戦時代に焦点をあて、歴史表象のあり方を人種・ジェンダーそしてクイアの側面から再検討し、演劇テクストと有機的に関連付けながら分析。アジア系アメリカ演劇におけるハイブリッド、クイア、政治的歴史表象の研究を包摂しつつ、過去３年間に集積・解析した演劇的歴史表象を文化的アイデンティティとの関係性から再点検し、アメリカ演劇・演劇史の文脈への再定位を図る。それにより、本科研研究の総まとめとして、演劇的想像力によるアメリカ正史、アメリカ神話の解体／脱神話化と脱構築する現代アメリカ演劇の政治学を可視化・定位し、本研究の成果として、発表、刊行する。

５．代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

「クイア・カップルの亡霊と遺産 ― テネシー・ウィリアムズの *Cat on a Hot Tin Roof* 」平成 21 年 3 月 19 日発行,『立命館国際研究』第 21 巻 3 号（安藤次男教授・及川正弘教授退職記念論集），立命館大学国際関係学会， pp. 25-43.

「クイアのポスト・ヴェトナム ― ランフォード・ウィルソンの『七月五日』をめぐって」平成 21 年 1 月 31 日発行,『アメリカ演劇』第 20 号（テレンス・マクナリー特集），全国アメリカ演劇研究者会議， pp. 90-111.

「パラダイムの逆襲 ―『フェフとその友人たち』に見るポリフォニーの幻影」平成 18 年 12 月 15 日発行,『アメリカ演劇』第 18 号（マリア・アイリーン・フォルネス特集），全国アメリカ演劇研究者会議， pp. 95-113.

〔学会発表〕（計３件）

シンポジウム：「*Our Town* を読み解く ― 歴史と普遍、固体と永遠」個人発表タイトル：「Grover’s Corners の地政学 ― *Our Town* が持つサブリミナル・メッセージ」平成 20 年 6 月 29 日，全国アメリカ演劇研究者会議第２５回大会， 於：エスカル横浜.

フォーラム：「２０世紀アメリカ文学の政治学」個人発表タイトル：「２０世紀アメリカ演劇の政治学―冷戦・クイア・ポスト冷戦」平成 19 年 12 月 8 日，第５１回日本アメリカ文学会関西支部大会於：京大会館 210 号室.

“Semiotics of Empire Domination: Guns and the Other on the American Stage” 平成 18 年 8 月 4 日， ATHS(Association for Theatre in Higher Education)’s 20th Anniversary Conference（米国高等教育演劇協会第２０回記念大会の ATDS[The American Theatre and Drama Society：アメリカ演劇学会]主催パネル“Empire vs. Nation in American Theatre History”[アメリカ演劇史における帝国対国家]で発表）於：Palmer House Hilton Hotel （米国、シカゴ）

〔図書〕（計３件）

『プッチーニ　西部の娘』（共著）平成 19 年 4 月 15 日,財団法人新国立劇場運営財団. 担当箇所：「原作者ベラスコの人と作品」pp. 16-18.

『神話のスパイラル ―― アメリカ文学と銃』（共著）平成 19 年 3 月 15 日，英宝社．担当箇所：「第三章　帝国支配の記号学 ― 舞台の上の銃と他者」pp. 94-144.

『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』（共著） 平成 18 年 10 月 10 日，世界思想社．担当箇所：「現代演劇の冒険 ― テーマ・パークのリンカーン」pp. 184-198.